委員会報告（閉会中の調査）

子育てしやすいまちづくりを目指して

社会文教常任委員会

社会文教常任委員会は、1月21日（水）に大阪府大東市のネウボランドだいとう、22日（木）に泉大津市のときめき給食（オーガニック給食）、23日（金）に奈良県三宅町の交流まちづくりセンターMiimoを視察した。

◆大東市ネウボランドだいとうは、すこやかセンター（大東市立保健医療福祉施設）内にある妊娠・出産・子育てに関する総合窓口となっている。

妊娠期から18歳までの子育てに関する情報窓口を一本化し、スムーズでライフステージに切れ目のない子育てサポート相談支援を行っている。

最大の特徴は子どもの年代ごとに専門スタッフが設置されている点である。専門知識を持った担当者から的確なアドバイスが受けられ、安心して相談できる体制が整っている。

日頃の育児相談や身体測定のほか、制作イベントやリフレッシュ企画なども行い、利用者が気軽に集まれる施設であった。

ネウボランドだいとう

大東市視察風景

◆泉大津市「ときめき給食（オーガニック給食）」は、学校給食で有機食材を使用する事だけを進めているものではなく、「市民の食を守る」「食べて健康になる」ことを主眼としている。

市民の健康増進に加え、食料危機への備えを目的として、令和5年3月に「安心・安全な食料の安定的確保に関する構想」を策定した。物量的な食糧危機のみならず、価格における食糧危機も見据えて策定。食糧確保の方法として、日本人の主食である「お米」の確保から始めた。

「ときめき給食」は、旬の食材の意味や伝統食の推進などに重きを置いたり、普段の給食では食べられないような食材を使用する事で食に興味を持ち、食育に寄与することも想定している。

学校給食だけにとらわれず、健康や食育・環境保全・地産地消・農業振興など市民全体を対象とした食への取り組みに感銘を受けた。

◆三宅町まちづくり交流センターMiimoは、老朽化や耐震性に課題のあった公共施設機能（公民館・図書・学童等）を統合し、財政運営の効率化と安全性の確保を図ることを目的に設立された施設である。

同時に、住民のやりたいことの実現や、子どもをまちぐるみで育てる環境づくり、町外ファン・地域資源を活かしたビジネスの創出など、まちの変化を生み出す拠点としての役割も担っている。

施設では、マルシェや講演会、体験型ワークショップ等が多く開催され、町外の人々を引き寄せる拠点となっていた。

その結果、子育て施設や学び・学童等が集積した交流の場としての認知が進み、令和6年度に人口の社会増にもつながっている。

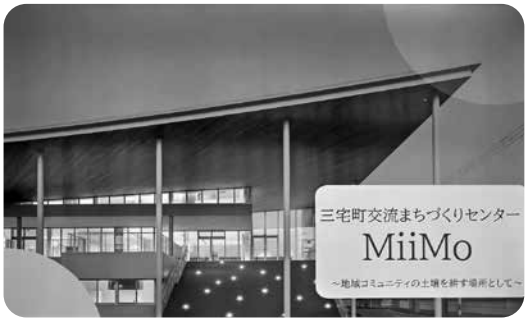
最終的には、住民一人ひとりの思いやりや可能性を地域の中で形にできる「場」として、住民の声に応じ柔軟に成長し続ける「育てる公共施設」を目指しているものである。

ときめき給食

今回の視察を通して、それぞれの取り組み内容について精査・確認し、坂城町の各種事業計画・検討の参考としたい。

（宮入　健誠）

三宅町視察風景



持続可能な社会の実現を目指す「藤沢SST」と長野県の情報発信拠点「銀座NAGANO」

総務産業常任委員会

総務産業常任委員会は、1月15日（木）に、持続可能なまちづくりや地域活性化について学ぶため視察を行った。

◆神奈川県藤沢市の「藤沢サスティナブル・スマートタウン（FujisawaSST）」は、企業と自治体が連携して整備された次世代型のスマートタウンであり、約1000世帯規模の住宅と商業・福祉施設を備えたまちとして整備されている。

街全体では太陽光発電や蓄電池を活用し、エネルギーを管理するエネルギーマネジメントシステムが導入され、平常時の環境負荷の低減に加え、災害時にもエネルギーを確保できる仕組みが整えられている。

また、電気自動車（EV）など次世代モビリティの活用や、子育て支援、高齢者の見守りなど生活サービスにも取り組まれ、住民同士の交流を促すコミュニティづくりも重視されていた。

藤沢 SST

企業、自治体、住民が連携しながらエネルギー管理や防災対策、生活サービスを進めている点が特徴であり、持続可能な社会の実現に向けた先進的モデルとして参考になった。

◆長野県のアンテナショップである「銀座NAGANO」は、首都圏における長野県の情報発信拠点として、県産品の販売や観光情報の発信、移住相談、イベント開催などが行われ、多くの来店者で賑わっていた。物産販売にとどまらず、人や情報が集まり交流が生まれる場として機能していることが印象的であった。

自動配送ロボット（藤沢 SST）

地域の魅力を都市部へ発信し、交流人口や関係人口の拡大につなげていく取り組みは、地域活性化において重要である。持続可能なまちづくりの推進に活かしていきたい。

（星　哲夫）